

Dell EMC Solutions for Microsoft Azure Stack HCI を採用して安価に HCI 環境へ移行し、可用性と運用効率の向上を実現。

ハードウェアの保守切れなどで業務システムの更改を行う必要があった東京海上アシスタンス株式会社では、これを機にハイパーコンバージドインフラ(HCI)への移行を決意。Dell EMC Solutions for Microsoft Azure Stack HCIを採用し、Dell EMC PowerEdge R740xd による仮想化基盤の構築を実現している。



アシスタンス事業

日本

ビジネス課題

Windows Server 2008や Microsoft SQL Server 2008 のサポート終了に伴い、ハードウェアの保守切れの対応を行う必要があった東京海上アシスタンスは、可用性と拡張性を高めるために HCI への移行を模索。Windows Server 2016 Datacenter エディションのライセンスだけで HCI を実現する Azure Stack HCI を採用し、コストを抑えて HCI への移行を成功させた。

ソリューション

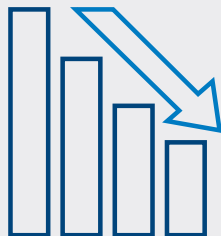
- エンタープライズソリューション
 - [Dell EMC Solutions for Microsoft Azure Stack HCI](#)
 - [Dell EMC PowerEdge R740xd](#)
 - [DELL Network S4128F-ON](#)
- エンタープライズサポート
 - [Dell EMC ProSupport Plus for Software](#)
 - [ProDeploy for Enterprise](#)

導入効果

- Dell EMC Solutions for Microsoft Azure Stack HCI によって、短期間かつ低コストで HCI 化を実現
- Azure Stack HCI による冗長構成の実現で、可用性と運用容易性を向上
- 15 台の物理サーバーを 4 ノードの HCI 化にすることで、ラック 1 台分の設置スペースを削減
- HCI 化することによって、長期的なコストを 2/3 に削減

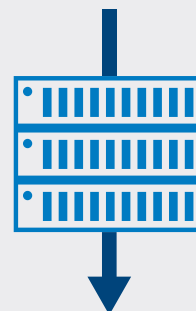
2/3

物理サーバーを購入することなく、スケールアウトによるコスト削減



ラック 1 台分

サーバー集約によってラック 1 台分の設置スペースを節約



東京海上グループの保険契約者に各種のアシスタンスサービスを提供している東京海上アシスタンス株式会社(以下、東京海上アシスタンス)は、自動車保険契約者向けのロードサイドアシスタンスをはじめ、ホームアシスタンスや入院アシスタンスなども提供している。

「拡張性や可用性を担保し、
安定稼働できるインフラを求めている中で、
Dell EMC Solutions for Microsoft Azure
Stack HCIに注目しました。
初めてのAzure Stack HCI構築でしたが
2カ月の短期間で構築でき、
長期的なコストを3/4に削減できて、
運用容易性も実現しています」

東京海上アシスタンス株式会社
情報システム部
インフラサービス課長
野村 朝太郎 氏

東京海上アシスタンスでは、業務システムの基盤として15台の物理サーバーを使ってHyper-Vベースの仮想化基盤を構築していたが、システムの更改を機にHCIへの移行を検討。数々のHCIソリューションを提供するDell EMCに相談した結果、Dell EMC Solutions for Microsoft Azure Stack HCIを採用し、4ノードのDell EMC PowerEdge R740xdを導入。導入コストを抑えながら、可用性と拡張性を実現している。

業務システムの更改を機に HCI化を検討

ロードサイドアシスタンスを中心に各種アシスタンスサービスを提供している東京海上アシスタンスでは、東京と福岡のコールセンターで年間100万件を超えるコールに対応。日本全国の提携レッカー事業会社との幅広いネットワークを活かし、24時間365日、高品質なサービスを提供している。「我々の業務で最も重要なのは、できるだけお客様からの電話を取り漏らさない体制を作り上げることです。台風や災害などで多くのお客様がトラブルに遭われた場合でも、1つひとつに対して他社よりも高いサービスを提供できていると自負してい

ます」と東京海上アシスタンス株式会社 情報システム部 インフラサービス課長の野村朝太郎氏は話す。

ハードウェアの保守切れに伴って物理サーバーの入れ替えを計画し、Windows Server 2008とSQL Server 2008サポート終了対策も行う必要があった同社では、2017年後半からどのようなシステムに移行するかを検討していた。Hyper-Vシングルサーバーと物理サーバーが混在しているシステムでは運用負荷が高く、可用性などが担保できない状態だったと野村氏は説明する。「仮想化されたシステムではありましたが、クラスタなどのHA構成にはしていないため、物理サーバーに何かあった場合はその上で稼働している仮想サーバーに直接の影響が出てしまいます。セミナーに参加したり、インターネットでいろいろと調べていくうちに、この状態から脱却するためには、HCI化することが有効なのではないかと考えるようになりました。」

サーバー OS のライセンスで HCI化が可能な Azure Stack HCIを採用

東京海上アシスタンスのシステムのほとんどは、Dell EMCのハードウェアが使われているという。「Dell EMCはコストメリットがあると考えていて、サポート面でも、相談すれば何とかしてくれるという印象があります。我々は、コスト面やスピードの面で、基本的には自分たちで構築を行うようにしているのですが、Dell EMCのサーバーやストレージを使い続けているので、スムーズな構築が実現できています。自分たちで構築することができれば、構築費用を見積もってもらう時間や、我々の文化や要望を説明して理解してもらう時間をかけることなく、コストも抑えることができます」と東京海上アシスタンス株式会社 情報システム部 インフラサービス課 主査の周防弓人氏は説明する。

業務システム基盤のHCI化を検討し始めた場合も、まずDell EMCに相談を持ち掛けたと野村氏は話を続ける。「担当の人にさまざまな相談していたこともあり、HCI化もDell EMCに相談してみました。Dell EMCは、さまざまなHCIソリューションを持っているので、その中で我々に最適なソリューションを提案してくれるという期待もありましたね。」

いくつかのHCIテクノロジーの提案の中で、野村氏が気になったのはMicrosoft Azure Stack HCIだったという。Azure Stack HCIは、Windows Server 2016の記憶域スペースダイレクト(S2D)をベースにしたHCIソリューションで、Windows Server 2016 DatacenterエディションのライセンスだけでHCI化を可能とするものだ。これまで、Windows Server Software-Defined(WSSD)と呼ばれていたソリューションが発展したものとして2019年3月にマイクロソフトが発表したのがAzure Stack HCIで、Microsoft Azureとの接続性も高いことが特長となっている。「サーバー OS のライセンスでHCIを構築できれば、他のソリューションよりもコスト面で大きなメリットとなります。また、これまで使い慣れたWindows ServerやHyper-Vを利用できることも、



構築や運用でメリットがあると思いましたが」と話す野村氏は、最初に聞いたときには一抹の不安もあったと振り返る。「S2DやAzure Stack HCIのことは知らなかったので、サーバーOSのライセンスだけで構築できるHCIに安定性を求められるのだろうか、とは考えました。しかし、Hyper-Vは安定的に稼働しているし、フェイルオーバークラスタなども多くの実績があります。我々は、システムを安定稼働させることが最も重要な使命ですが、最終的にはDell EMCとAzure Stack HCIによって、安価かつ簡単に安定稼働できるインフラを実現できると判断しました」。

自ら構築を行うとはいえ、初めてのAzure Stack HCIを行う東京海上アシスタンスにとって大きな役割となったのは、リファレンスアーキテクチャであるDell EMC Solutions for Microsoft Azure Stack HCIと構築サービスのProDeploy for Enterpriseだ。「Dell EMC Solutions for Microsoft Azure Stack HCIを採用することで、さまざまな検証などの手間をかけずに構築することが可能となります。また、ProDeploy for Enterpriseは、今後のためにどのような作業をするのかを勉強しながら2カ月間という短期間で構築できたので、Dell EMCの提案に乗ってよかったです」と野村氏は話す。

長期的なコスト削減を実現できて 運用負荷も低減

Dell EMC PowerEdge R740xdを4台導入してAzure Stack HCIを構築した東京海上アシスタンスは、現在は本番環境で使う仮想マシンをテストしている段階で、これから新システムにデータ移行を行う予定となっている。「R740xdは、今回初めて導入しましたが、PowerEdgeシリーズを使い続けていて、トラブルが少ないという印象を持っているので、シリーズ自体への安心感がありますね」と野村氏。

Azure Stack HCIの将来的な拡張性にも大きな期待を寄せている、と周防氏は説明する。「以前は、Hyper-Vシングルサーバーとなっていたため、新たなアプリケーションを作る際には物理サーバーを増設してから仮想マシンを載せる必要があり、購入期間やコスト、物理サーバーを構築する期間が必要となってきました。新システムは、可用性が高くなり、短期間で必要なアプリケーションを提供できるようになることが魅力ですね」。

また、長期的に見て物理サーバーを増やすよりも、スケールアウトで仮想サーバーを増やすことで、HCI化によるコスト削減を実現できると野村氏は考えている。「単純にWindows Server 2008のシステムをそのままWindows Server 2016に移行するほうが、HCI化するよりも初期導入コストを低く抑えることができます。しかし、そのままの構成では、今後さまざまな仮想マシンを追加した場合に、物理サーバーを増やす必要があります。長期的に見ると、最終的にコストを約2/3程度に削減できた上で、冗長性と可用性を実現できると考えています」。15台の物理サーバーを4台に集約できた点について野村氏は、「まだ、既存のシステムが稼働しているので設置場所な

「Dell EMC Solutions for Microsoft Azure Stack HCIによって、短納期でアプリケーションを提供できるようになります。HCI化でサーバーとストレージを一元管理でき、SupportAssist EnterpriseでDell EMCからプロアクティブなサポートも受けられるので、運用面で非常に安心できます」

東京海上アシスタンス株式会社
情報システム部
インフラサービス課 主査
周防 弓人氏

どのメリットは感じていません」としながらも、「将来的には、物理サーバーを減らして、ラック1台分くらいは減らせると考えています」と話している。

運用面では、周防氏が「以前はストレージの管理を別で考える必要がありましたが、Azure Stack HCIではサーバーとストレージを一元管理でき、わずらわしさがなくなったと思います」と話すようにHCI化の効果を感じている。そしてまた、Dell EMC Solutions for Microsoft Azure Stack HCIとともに提供されるDell EMC ProSupport Plus for SoftwareでHCIに関するサポートを一元化でき、管理ツールのiDRACに組み込まれているDell EMC SupportAssist Enterprise (SAE)が今後の運用に大きな効果があると期待している。「これまでもDell EMCのサポート窓口へ電話すれば、素早く対応してくれていましたが、SAEでログが自動的にDell EMCに送られ、プロアクティブなサポートを受けられるのは非常にありがたいですね。障害やトラブルを未然に防ぐことができることに期待しています」と周防氏は話す。

さらに、野村氏はDell EMCのサポートについて、次のように評価してくれた。「元々、Dell EMCのサポート力への評価は高く、我々の課題を理解してくれて、相談もできるため、コストメリットも含めてDell EMC製品を使い続けてきました。Dell EMCは、国内でしっ

かりとサポートしてくれていることも評価できますね。メーカーによっては、海外サポートとなるため、言葉の壁などで問題点を伝えるだけでも一苦労で、解決までに時間がかかることもありましたが」。

今回の導入の実績を出して HCIの採用を進めていく

業務システムのHCI化を実現した東京海上アシスタンスだが、将来的には、メールサーバーやCRMなどの他のシステムもHCI化することも検討していると野村氏は説明する。「業務システムをAzure Stack HCIにして、しっかりと実績を残すことができれば、他のシステムもHCI化することが検討できます。我々には、複数拠点のデータセンターがありますが、拠点によってはこれ以上ラックを置けない状態となっているため、HCI化が進むことによってラックを減らし、運用管理が楽になることを期待したいですね。DRサイトなどもHCI化できれば、より安定稼働を目指すことができると考えています」。

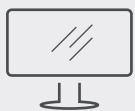
コストを抑えてインフラのHCI化を実現した東京海上アシスタンスでは、安定稼働できるインフラをベースに可用性や拡張性を担保し、さらに高品質なアシスタンス業務を提供していく。



東京海上アシスタンス株式会社
情報システム部
インフラサービス課長
野村 朝太郎 氏



東京海上アシスタンス株式会社
情報システム部
インフラサービス課 主査
周防 弓人 氏



Dell EMCの
サーバーソリューションの
詳細はこちらから



専門スタッフへの
お問い合わせ



お客様導入事例の一覧は
こちらから



この記事を共有する